

## 角館ライオンズクラブが 神代中学校に備品を寄贈

前列左から熊谷教育長、生徒代表の2年生の津島萌香さん、1年生の藤峰太輝君、後列左から角館ライオンズクラブの河原田次朗会計、茂木賢幹、岡田一会長、小林高太郎校長。



1月30日、角館ライオンズクラブ(岡田一会長)が神代中学校にワイヤレスアンプとマイクセットを寄贈しました。同クラブは、青少年の健全育成を推進する一環として毎年、市内の学校へ備品などを贈る活動を行っています。小林高太郎校長は「ご支援をいただき感謝します。さらに生徒の頑張りを引き出せるよう、行事や大会などで活用させていただきます」と話しました。

## 写真の部で最高点 全国広報コンクールに推薦決定

このほど、広報せんぼく8月16日号で採用した表紙写真が平成29年全国広報コンクールに推薦されました。県内の応募総数14作品から選ばれたもので、仙北市は最高点を獲得しました。

秋田県の審査では「貴重な一瞬で、無念さが伝わってくる」との高い評価をいただきました。

【写真説明】全国高校野球選手権秋田大会の決勝戦、角館高校と大曲工業高校の県南対決。8回表まで4点リードしていた角館高校がその裏に逆転を許し、そのままゲームセット。負けが決まった瞬間、脱力し無念さをにじませる選手。



平成29年全国広報コンクールへの推薦が決定した表紙写真。

## 園児たちと昔遊びで伝承交流



楽しい時間を過ごす

1月27日、角館保育園で角館町地区老人クラブ連合会が主催する世代間交流会が行われました。この交流会は、老人クラブ会員と園児の交流・健康づくりを目的に10年以上にわたり続けているものです。当日は、市連合会の藤原剛会長をはじめ、老人クラブ会員や市スポーツ推進員が園児たちとお手玉やあやとり、竹馬など、昔から伝わる遊びで楽しい時間を過ごしました。



なつかしいお手玉で遊ぶ子どもたち。昔から伝わる遊びは時代が変わっても人気のようにでした。

## 東日本旅客鉄道が感謝状贈呈



駅まつり等への協力に感謝

1月23日、仙北市と田沢湖・角館観光連盟が、東日本旅客鉄道(株)秋田支社から感謝状を授与されました。これは、昨年10月に田沢湖・角館両駅で開催された田沢湖線全線開通50周年記念の駅まつり等への協力に対し贈られたものです。田沢湖庁舎で行われた贈呈式では、同社の菊地正支社長から門脇市長と田沢湖・角館観光連盟の佐藤和志会長に感謝状が手渡されました。



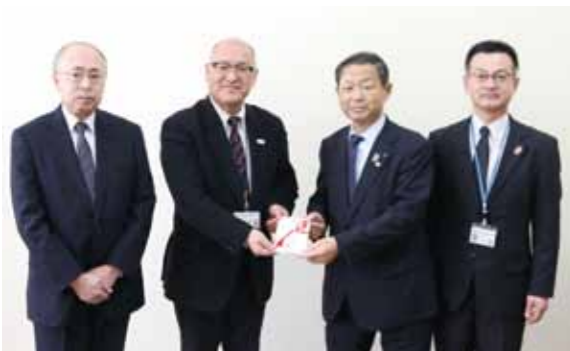
左から倉橋副市長、門脇市長、田沢湖・角館観光連盟の佐藤和志会長、東日本旅客鉄道(株)秋田支社の菊地正支社長。

## 農業体験学習の売上金を寄付



有効活用期待込めて

西明寺小学校がネギ栽培農業体験学習を始めて6年目を迎えます。この学習は農業の喜びを学ぶ食育活動で、地元農家の佐藤一也さんが農地の提供や栽培指導をしています。今年度は6年生25人が、総合学習の時間に取り組みました。このほど、昨年の市産業祭で販売したネギの売上金8万1500円がJA秋田おばこを通じて仙北市に寄付されました。



1月30日、目録が手渡されました。左から倉橋副市長、門脇市長、JA秋田おばこの藤村正喜代表理事組合長、佐々木桂一総合企画部長。

## 高井有一先生をしのぶ会



故人の思い出を語る

1月21日、昨年お亡くなりになられた新潮社記念文学館名誉館長の高井有一先生をしのぶ会が角館町のグランデールガーデンで開催されました。当日は角館図書館後援会の会員など約60人が参加しました。高井先生は、昭和41年に角館町を舞台とした「北の河」で芥川賞を受賞。角館図書館後援会主催の文化講演会では、長年にわたり講師の紹介を続けてくださいました。



高井先生の妻・中村輝子さん(左)と高井先生と長年親交があった角館町出身の作家・塩野米松さん(右)が思い出を語り合いました。

## 学校給食で御狩場焼が登場



佐竹北家の料理を味わう

学校給食記念日の1月24日、市内の給食で、佐竹北家ゆかりの料理「御狩場焼」が提供されました。鶏肉に山椒みそを付けて焼いたこの料理は、江戸時代に佐竹北家の殿様が狩猟の際に食べたといわれています。地元で伝わる食文化に親しんでもらおうと、角館町観光協会の提案でこの企画が実現したもので、初めて食べる伝統の味に児童たちは笑顔を浮かべていました。



御狩場焼を食べた児童たちは「とても美味しい」と笑顔で味わっていました。

## 仙北市の未来を創る子どもたち



まちづくりを考える機会

1月12日、市内小中学校12校の代表28人が議員となる仙北市子ども議会が市議場で開催されました。この議会は、児童生徒に市が抱える課題などについて関心を持ってもらおうと、3年ぶりに開催されたものです。子どもたちは、秋田内陸線の利活用や防災対策、地方創生特区などについて門脇市長や市当局に質問し、未来のまちづくりを思い描いていました。



秋田内陸線の利活用や地方創生特区など、子どもの視点で市の課題について質問する児童。